

北野神社獅子舞

(きたのじんじゃししまい)



【所在】

鷹栖町 13 線 4 号
(北野神社)

【指定年度】

昭和 53 年

【分類】

民俗文化財

受け継がれる勇壮な舞

由来は、旧金沢五社の筆頭たる御神格の金沢椿原天満宮の獅子舞が、江戸末期から明治初期にかけて加賀藩内に伝わったもので、そのうち富山県砺波郡旧東野尻村苗加に伝わるものが伝承された。この村の神明社に雄雌 2 頭の獅子があり、北海道に移住した川辺源三郎が雄獅子を譲りうけたものとされている。

獅子舞の構成は、獅子頭に 1 人、胴体に 5 人が入り、獅子とりの少年は 1 人で棒、なぎなた、草刈がまが持ち物である。笛や太鼓の囃子に合わせての踊りは勇壮で男性的である。

戦時中、青年団の解散により中断されたが、その後に北野神社獅子舞保存会を設立、昭和 53 年 12 月 12 日に鷹栖町文化財の第 1 回に指定された。

しかし、構成員の高齢化、人員不足により平成 16 年を最期に休止状態が続いていたが、Uターンしてきた若手農業者を中心に平成 22 年に復活。毎年 8 月 4 日の北野神社例大祭において、力強い演舞が披露されている。